新聞やテレビで目にする被災地のようすは、切り取られた一部 の時間。東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故から今に 至るまでの7年におよぶ時間のうち、私たちはほんの数時間分 しか見聞きしていないのかもしれません。

北海道への避難者 (北海道 2017年12月現在) ※「その他」は主に関東圏。

避難元	避難者登録数	前年比
岩手	66	-18
宮城	438	-46
福島	1,127	-58
その他※	207	-13
合計	1,838	-135

避難者登録数減少の理由は、避難元へ の帰郷のほか、道内への移住を決めた ことにより避難者登録を解除した方 がいることも挙げられます。また、当初 から移住を決意し来道した方もいる ことから、震災・原発事故の影響で、 現在北海道に暮らしている方の実数 はもつと多くなります。

仮設住宅(プレハブ等建設分)の入居者

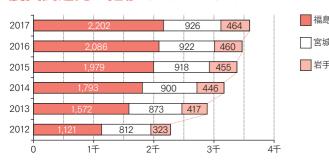
	戸数	入居者数
岩手(8市町村)	3,047	6,205
宮城(6市町村)	2,117	4,144
福島(20市町村)	2,377	4,083
合計	7,541	14,432



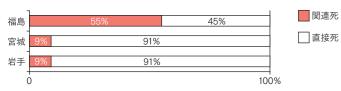
(各県 2017年12月現在)

仮設住宅の入居者数は、前年に比べ半数以下になっている一方、仮設団地の統合により、 仮設住宅から仮設住宅への転居を余儀なくされる方々もいらつしゃいます。

震災関連死の推移 (復興庁 2017年9月現在)



死亡原因の割合(各県 2017年12月現在)



震災関連死者数は、災害弔慰金の申請を遺族が行い、各市区町村が設置する機関により、 直接死以外で「この震災が原因で死亡した」と認定された方の数です。



まちはもっとシンポする。

主催 3.11SAPPORO SYMPO 実行委員会

(北海道NPO被災者支援ネット、札幌駅前通まちづくり株式会社、一般社団 法人北海道ブックシェアリング、北の里浜 花のかけはしネットワーク、 株式会社ギガデザイン、NPO法人北海道NPOサポートセンター、月輪会、

詳しくはホームページまたはフェイスブックからもご覧いただけます

http://311sapporo-sympo.com/ サッポロシンポ 検索







気仙沼市/防潮堤の高さに合わせ、9メートルのコンクリートで固められた沖ノ田川



浪江町/避難指示が解除された地域では、これからが復興のはじまり



福島市/仮仮置場(住宅敷地内など)に一時保管される除染廃棄物

写真は2017年2月に撮影したものです。それから1年経った 各地のようすは、会場モニターにてご覧いただけます。

共催 公益財団法人北海道地域活動振興協会

後援 北海道、札幌市、北海道新聞社

助成 タケダ・赤い羽根 広域避難者支援プログラム、越智基金

協賛 ② 江別すずらん病院 アルキタ ヨョコュキョ しゅふきた

札幌駅前通まちづくり株式会社

NGR つながろう東北OB・OG会 NPO法人日本自治アカデミー 連合北海道

協力 吉川Family Presents 「僕らの街から」、NPO法人札幌 障害者活動支援センターライフ 共働事業所もじや、一般 社団法人北海道広域避難アシスト協会





8年目の3.11

SAPPORO SYMPO

2018年

3月10日(土) 3月1111:00-18:00



3.11SAPPORO SYMPO | 3.11SAPPORO Live | 3.11SAPPORO Charities | 今を伝える写真展 | 今が見えるパネル展 ほか

チ・カ・ホ (札幌駅前通地下歩行空間) 北3条交差点広場(西)

3.11SAPPORO SYMPO 実行委員会 札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園201 北海道NPO被災者支援ネット 内 TEL:080-3230-5900 E-mail:info@311sapporo-sympo.com

東日本大震災・福島第一原子力発電所事故から7年が経ち、8年目を迎えます。 「3.11SAPPORO SYMPO」は、

北海道に避難・移住した人、被災した地で生きる人、そしてその人々とともに歩む道民が 気づき、学んだことをこれからのまちづくりに活かすことを目的としています。 それが、失われたたくさんの命と、被害を受けた方々とともに生きることであり、 だれもが暮らしやすい社会を育てることにつながると信じるからです。



ひとはもっとシンポする。 まちはもっとシンポする。

3.11SAPPORO SYMPO

だれかの気づきや経験が、「ひと」をつなぎ、「まち」をつくる…サッポロ"シンポ"ジウム

SYMPO ① 見る・知る・楽しむ 東北旅行記



中脇 **まりや** (みちのくkids 初代代表)

東日本大震災の影響で札幌に来た子どもたちとレクリエーション活動を行う、みちのくkids初代代表。現在はコミュニティ&レンタルスペース「オノベカ」 の企画・運営を行いながら、東北との関わりやまちづくりについてゆるやかに考え中。

昨年9月に二泊三日で行った、東北旅行のようすを写真とともにお話しします!学びのスポットはもちろん、美味しいものもお知らせします。東北旅行、 行ってみませんか?

SYMPO ② 3.11後の社会と私の日常 — 教訓ということ—

工藤 久美子 (NPO法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port 理事) ほか



野澤 淳史 (日本学術振興会特別研究員)

専攻は環境社会学、障害学。大学学部生のころより、公害の原点とも言われる水俣病問題に取り組んでいます。

東日本大震災発生後、福島第一原発事故の影響を受ける障害者に対する調査を経て、現在は札幌市をはじめとして北海道に自主避難した人々やその 支援者への聞き取りを続けています。時間の経過とともに社会と3.11との距離がますます開いていく中、あのときに起きたことがらと一人ひとりの日常 を結びつけるものについて考えていきます。

SYMPO 3 3.11 \times = LGBT



1996年6月、札幌で初めてのLGBTのパレードが開催されました。それから15年後の2011年3月11日に東日本大震災は起こりました。3.11は私たち LGBTにとっても、生き方、考え方、暮らし方に影響を与える大きなできごとでした。

私が活動する団体「L-Port」も被災地で暮らすLGBTの教訓と声を受けて、2012年3月11日に設立されました。震災から8年。札幌のLGBTコミュニティを 振り返りながら、震災が私たちLGBTにもたらしたこと、そして、これからを考えていきます。

SYMPO ④ 福島県の避難指示解除区域における読書環境の現状に関する調査



荒井 宏明 (一般社団法人北海道ブックシェアリング 代表理事)

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、避難指示が出た自治体は12市町村にのほります。昨春、浪江町や飯舘村(一部を除く)などの避難指定 が解除になり、大熊・双葉両町と一部地域以外は帰還可能になりました。しかし避難解除となったまちで、どのような再開と復興が進んでいるか、情報 はなかなか伝わってきません。社会教育・生涯学習分野の復興・再開については、県内でも情報共有が進んでいないという現状があります。北海道ブック シェアリングは「避難指示解除後の読書環境の状況と今後の見通し」について、取材を実施しました。そのリポートを報告します。

SYMPO ⑤ タコと絵ふでをつなぐ糸のお話し

足立 千佳子 (宮城県登米市「さざほざ」仕掛人) / 卜部 奈穂子 (合同会社ペン具 代表社員)





2017年3月、3.11SAPPORO SYMPO「7年目の3.11」会場にて出会い、意気投合した二人。

「編んだもんだら」でつくられた魚のエコたわしを題材に、ペングアートのアーティストが絵を描き、ポストカードを作成することから はじまった相互交流は、単に、ものづくりを目的にしたものではなく、東北のお母さんたちとペングアートの子どもたち、一人ひとりを つなぎながら、あたたかな「支え合い」を育んでいます。それぞれ「まちづくり」に関わる仕事にも携わる二人が、この一年間の「編んだ もんだら」と「ペングアート」の交流を通して見えてきたことをお伝えします。

SYMPO ⑥ 原発事故損害賠償・北海道訴訟 ―失った[暮らしそのもの]に対する賠償を求めて―

伊藤 考一 (弁護士/原発事故被災者支援北海道弁護団 事務局長) / 聞き手:金榮 知子 (北海道NPO被災者支援ネット 代表)





2013年6月21日、札幌地方裁判所に原発事故損害賠償・北海道訴訟が提訴されてから4年9か月。2018年3月13日(火)に19回目と なる口頭弁論が行われます。この裁判の被告は国と東京電力。原告が求めているのは「原発事故により失われた暮らしそのもの」 に対する賠償です。全国20か所で同様の裁判が行われ、群馬、千葉、福島ではすでに判決が出ており、事故の責任に関しては原告の 主張が認められたところもありますが、賠償については被害に見合った判決が出ているとは言えません。2019年には判決が出ると 言われている北海道訴訟の解説をわかりやすくお伝えします。

SYMPO② 人・自然・風土への順応と復興

阿部 聡史 (環境デザイナー) / 千葉 👤 (一般社団法人前浜おらほのとっておき 理事/東北学院大学 非常勤講師) / 鈴木 🙃 (北の里浜 花のかけはしネットワーク 代表)







東日本大震災から7年の年月は、震災直後より推進されてきた行政主導の計画プロセスや大規模な土木事業などの 復興事業が、被災地にどのような影響や結果をもたらしているのかを浮き彫りにしつつあります。私たちはそれら の問題を改めて確認し、復興のあり方を問い直さなければならない機会に直面しているのではないでしょうか。 今、被災地では何が起きているのか。なぜそうなったのか。その問題にこれから地域はどのように向き合う必要が あるのか。人・自然・風土に順応しながら地域の営みを取り戻していく術を、被災地での取り組みを事例に考えます。

3.11SAPPORO Live

音楽で思いをつなげるミュージシャンによるライブ&トーク

華と夢とモノノケ

艶やかなハスキーボイスが魅力の"HARU"とフリースタイルトランペッター "yoshito"によるバンド「華と夢の音楽暖」。妖怪という独自の目線で現世に語りか テージで歌い続けてきた両者によるスペシャルユニットが愛と平和のメロディーを 奏でる。



10日(土)

Live 華と夢とモノノケ

見る・知る・楽しむ

東北旅行記中脇まりや

Live 野花南

SYMP03

3.11 X = LGBT 工藤久美子ほか

福島県の 避難指示解除区域における 読書環境の現状に

11:00

11:30

12:00

12:30

13:00

13:30

14:00

14:30

15:00

15:30

16:00

16:30

17:00

17:30

18:00

18:30

19:00 -

11日(日)

足立千佳子 卜部奈穂子

SYMP06

原発事故損害賠償

聞き手:金榮知子

「僕らの街から」

林家とんでん平

SYMPO 7

、自然・風土への

阿部聡史

野花南

嵯峨治彦[馬頭琴、喉歌]と嵯峨孝子[朗読、5弦カンテレ]によるユニット。民族楽器 の生演奏を、世界各地の民話や詩の生き生きとした語りと緻密に融合させる独自の スタイルで全国各地で公演活動。震災後、被災地の子どもたちを北海道に迎えた保養 活動や、福島県川俣町での支援イベントにて演奏。ユニット名は北海道中央部の 自然豊かな地域「野花南」にちなむ。



吉川Family Presents「僕らの街から」※午後2時46分、会場にて黙祷を捧げます。

STVアナウンサー吉川典雄、札幌出身の4人組バンドTRIPLANE、北海道出身でシン ガーソングライター・作曲家の河野玄太が、2011年に立ち上げたチャリティイベン ト。自分たちができることを続けていく…その思いを、オリジナルソング「輪になって」 にこめて、札幌、気仙沼、東京、熊本にてライブイベントを行う。吉川典雄、TRIPLANE のボーカル江畑兵衛とドラム広田周、河野玄太の4人によるライブ&トーク。



林家とんでん平

小樽出身。1980年、初代 林家三平最後の弟子となり、1996年真打。1990年より 手話落語を手がけ、国外ではデンマーク、ロシア(サハリン)、中国でも公演を行う。 子どもの喘息に伴い、埼玉県草加市から福島県いわき市に移住、2000年には、子ども が障がいも持ったことから札幌に移住。2003年~2015年札幌市議会議員を務め たのち、2016年、東日本大震災及び熊本地震で被災された方々に笑いを届けること、



被災されていない方々には被災地の現状を伝えるため、全国6000キロ102日間82か所を落語行脚。

3.11SAPPORO Charities

ここで、買ったものがあなたを幸せにしたり、笑顔にしたり… ここで、お買いものをすることが寄付につながり、誰かを支える… めぐりめぐって大きな輪になる。

北海道ブックシェアリング tallsub



一般社団法人北海道ブックシェアリングは、図書関係者と教育関係者によって2008年に設立。東日本大震災の半年後、宮城県石巻市に分室を設置し、1年半にわたって 「読書環境の復旧・復興」を支援。図書館や公民館図書室などの再開を手がけた。読み終えた本の再活用、読書イベントや読書指導などを通じ「格差のない読書機会」を 目的に活動。2016年に支援先の陸前高田市より譲り受けた移動図書館の車両を利用し、道内の無書店自治体を巡る活動「走る本屋さん」を行い、その活動を踏まえ、2017年 より「北海道の読書環境整備に向けたネットワーク形成事業(ぶっくらぼ) | を開始。

いのちをつなぐチャリティーマルシェ 道内チーズ工房のチーズと東北物産販売



「生産者である農家の思いに、消費者の思いを重ね合わせ、北海道からたくさんの応援したい気持ちを被災地に届けたい」そんな思いから生まれたマルシェは、2011年 3月に全国で最も早い復興支援チャリティイベントとして開催され、今回で13回目。2017年にはチャリティの益金と寄付金により、道内へ避難された世帯のうち、生活 困窮されている方々への直接支援を行った。単なる物販ではなく、「今、自分たちにできること」を

考えながら、「いのちをつなぐ」農家+消費者の協力の仕組みを広げていく場。

ペングアート&編んだもんだら アート作品・アクリルたわし販売



【ペングアート】…2011年に児童デイサービスペングアートとして開所。自閉症などの子どもた ちにアートを通した療育を実践。福祉の枠を超えたアートイベントの開催や出展を行いなが ら、多くの人に自閉症スペクトラムなどの障がいに対する正しい理解を広め、子どもたちの社会参 加への足がかりの一助になることを目指す。2017年開催の3.11SAPPORO SYMPO「7年目の

3.11]会場で「編んだもんだら」と出会い、意気投合。その後の交流から誕生したコラボグッズも販売。



【編んだもんだら】…「編んだもんだら」とは、アクリル100%の毛糸で編んだ、編みぐるみのよ うな洗剤いらずのエコたわし。震災以降、生活の環境が激変した東北に暮らす女性たちの生きる 力を、コミュニティビジネスとして発信していく「さざほざ」プロジェクトの一環として、女性の「手 しごと」を発展させる目的でつくられている。編み手は南三陸町、気仙沼市で津波被害にあったお

母さんたち。代金500円のうち40%は編み手に、残りは原材料費と活動資金となり、商品づくりを支える。 ※3月11日(日)13:00~17:30まで、会場にて「さざほざ」仕掛人の足立千佳子さん指導による「あみあみワーク ショップ一簡単シュシュづくり一|を行います。参加費300円は「編んだもんだら」の活動に活かされます。

きぼうのワークショップ 参加無料



北海道が企業・団体との連携により木育の一環として取り組ん でいる〈東北にきぼうでメッセージを贈ろう!~「希望」を「きぼ う」でプロジェクト〉。会場では、被災地の子どもたちにむけて、 ワークショップを開催。集められた「きぼう」は木枠とセットで 「きぼうのプール」として被災地の子どもたちに寄贈されます。 これまでに完成した「きぼうのプール」8セットは、被災3県や メッセージの書き込みは15分~

小学生以下のお子<u>さまは</u> 保護者同伴

